
天神川河口砂州の解析(経過報告)

倉吉河川国道事務所

天神川河口閉塞対策の検討

- 天神川河口では、常時河口砂州が形成されており、冬季波浪による漂砂の打ち込みや沿岸流の作用により河口閉塞を起こすことが多々ある。
- 河口閉塞は内水面の水位上昇による氾濫や、周辺の砂浜への土砂供給を阻害することとなり海岸侵食の原因ともなる。



平成27年度より2カ年で、鳥取大学との包括協定により共同研究

目的： 波浪による河口砂州形成と変形特性を把握する
数値解析により河口閉塞対策を検討する

平成27年度～平成28年度 実施内容

- 河口砂州，河口付近の地形測量
- 河床材料について資料のとりまとめ
- 波浪及び流況観測
- 数値モデルの開発
- 河口砂州に関する既往の研究の整理
- 観測結果と数値シミュレーションに基づく河口閉塞対策の検討

数値モデルの開発

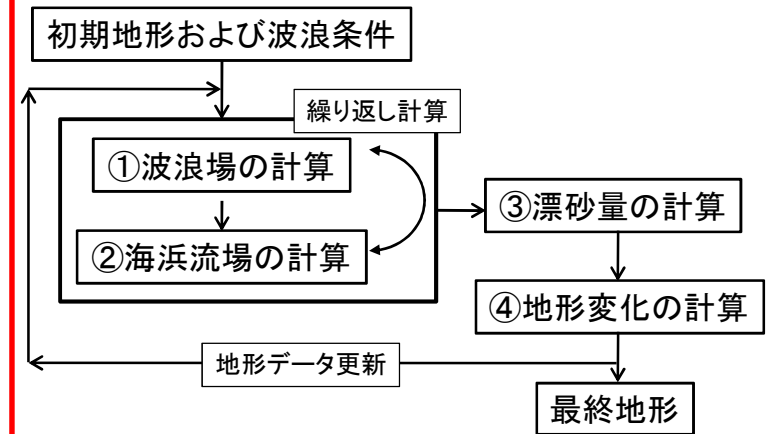
河口閉塞対策を検討するためのシミュレーションモデルの開発

3次元海浜変形予測モデルによる 河口砂州形成のシミュレーション

入力値：地形データ、有義波高、有義波周期、
波向、地形データなど

- ①波浪場の計算 → 波高分布、波向き分布
- ②海浜流場の計算 → 河川流も含む海浜流分布
- ③漂砂量の計算 → 浮遊砂、掃流砂分布
- ④地形変化の計算 → 水深変化と砂州の変形計算

計算の流れ図



平成27年度 実施状況(測量作業)

沖合の深淺測量



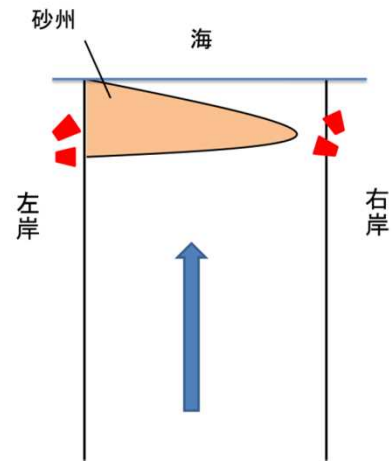
ラジコンボートによる浅海域の測量



RTK-GPSによる海浜測量



定点カメラによる観測



①



②



水位観測

